

しなの(農) × (福)通信

令和5年(2023年)6月第20号
発行者：滋賀県農政水産部みらいの農業振興課

滋賀県内の特別支援学校では、教育活動の中で「農業」が積極的に取り入れられています。今回は県内の特別支援学校における農業の取組の現状と、甲南高等養護学校での取組をご紹介します。

滋賀県内の特別支援学校について

● 特別支援学校とは

特別支援学校は視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱の子どもを対象とする学校で、県内には分教室等を含め22校が設置されており、約2,400名が在籍しています。

特別支援学校の小・中学部では基本的な生活習慣の確立と、仲間と協力して行動することを学び、高等部では将来の就労を意識した農業・園芸・木工・縫工・食品加工などの作業学習も行われています。

● 特別支援学校での農業の取組・農業を通じた地域とのかかわり

県内の特別支援学校では、ほぼすべてで農業に関係する取組が行われており、露地での野菜や花の栽培に加え、ビニールハウスを設置し、本格的に農業に取り組んでいる学校もあります。

特別支援学校の卒業生の就労先として農業分野は少ないにもかかわらず、多くの学校で農業が授業に取り入れられている理由として、屋外で土に触れて農作業を行うことが心身の成長につながることで、種まきから収穫、販売までの一連の流れを体験できることなどがあげられます。



また、特別支援学校では授業や行事等を通じた地域との関わりを大切にされていますが、農業に取り組むと、「地域の方と共同でお米を栽培する」、「校外実習において地域の農家で収穫体験を行う」、あるいは「体験実習で地域の方に農産物を販売する」など、生徒が地域とのつながりを持つ機会に繋がります。これも、取り組みが盛んな理由の一つのことです。

● 特別支援学校での農業の取組における課題

特別支援学校において農業に取り組むことは児童・生徒にとっても良い影響がありますが、課題もあります。その一つは、卒業生の農業分野における就労先の確保です。農業分野での就労に興味を示す生徒は一定数いるものの、実習の受け入れ先や就労先が十分確保されているとは言えない状況です。就労先となる農家の多くは車でしかアクセスできず、自動車免許がないと通うことが難しく就労できないことがあります。また、就労できた場合においても、日常の業務を共にする従業員とお互いの理解を深めることができず、定着しないこともあるそうです。

また、特別支援学校で農業を指導する教員の確保も課題です。特別支援学校で農業を指導する教員は、農業の専門ではない場合がほとんどです。担当となった教員は多くの場合、手探りで授業のやり方を考えています。特別支援学校の中には、地元の農業の方が指導に加わってくださったり、農業高校の元教

員が非常勤として指導をおこなうなど、周囲の支援体制が整っているところもありますが、すべての学校が対応しているわけではありません。

これらの課題を解決すべく、各学校では就労先の開拓、実習や地域との交流を通じた障害に対する理解促進、地元農業者の協力による教員向け研修の実施など、周囲の協力を得ながら様々な努力が行われています。

甲南高等養護学校での取組

● 高等養護学校とは

特別支援学校のうち、高等養護学校は軽度の知的障害を持つ生徒を対象としており、一般的な事業所での就労を目標として、社会的自立・職業的自立を目指した教育課程が組まれています。県内には北大津高等養護学校、愛知高等養護学校、長浜北星高等養護学校、甲南高等養護学校の4校がありますが、いずれも高等学校に併設されており、授業、行事、部活動等において高等学校の生徒との交流が活発に行われています。

授業は国語や数学などの一般教科と職業に関する専門教科に分かれています。専門教科については、1年生の間は農業を含む様々な分野を幅広く学び、2年生以降は生徒の希望に応じて農業コースや被服コースなどの選択を行い、農業、家政、工業、福祉、流通・サービスなどをそれぞれの選択コースに応じて実践的に学習します。卒業後は学んだことを活かし、80%以上が企業就労されています。

● 甲南高等養護学校について

甲賀市甲南町にある甲南高等養護学校は、平成19年に甲南高等学校に併設され、各学年24名、計72名の生徒が在籍しています。

専門教科については、1年生では全員が農業・服飾・調理・介護・木工を一通り学び、2・3年生では農業を中心とした「農業・ものづくりコース」と、調理・介護・服飾で構成される「福祉・くらしコース」に分かれ、コースごとに知識や技術を身に付けていきます。

また、1年生の時から企業等での就業体験が行われ、在学中の3年間をとおして卒業後の進路に向けて準備が行われています。



門松を丁寧に作り上げます

● 農業・ものづくりコースについて



たくさんの門松は毎年完売です！

令和4年度は、3年生の生徒24名中17名が「農業ものづくりコース」を選択していました。1年生時は農業の授業は週4時間ですが、2・3年生では週8時間となり専門的に農業のことを学んでいきます。

現地実習も多く、地元の農家でブドウやアスパラガスの管理作業や農場での畑の畝立て、マルチ張り、追肥なども体験します。現地実習では農業者の方から、学校で行っている農業へのアドバイスもいただけるので、生徒だけでなく指導する教員にとっても授業内容の改善につながる貴重な機会となっています。

取材に応じていただいた3年生のみなさんに、なぜ農業に興味を持たれたのか聞くと、「体を動かすのが好きだから」「おじいさんが農業をしていたから」といった答えが返ってきました。生徒の皆さんの様子から、作業にやりがいを感じておられ、クラスみんなで協力しながら楽しんで農業に取り組まれている雰囲気伝わってきました。

農業の指導を担当されている土平先生は、専門教科は体育で、ご自身は農業の経験がなく、指導方法を実習助手の先生や知り合いの農業者から教えていただき、日々勉強されています。今年度、生徒の皆さんの希望でメロンやトウモロコシの栽培に挑戦するも失敗してしまわれたそうですが、次年度も生徒たちの意見を参考に新しい品目に挑戦したいとのことでした。

土平先生は、「生徒が授業でいろんなことに挑戦するので、自分も一緒にチャレンジしようという気持ちになりますし、他にも授業を通して生徒から学ぶことがたくさんあります。農業の授業を担当してみて、農業は就労という目標だけでなく達成感やチームワーク、自身の得意分野の発見など生徒たちにとって得るものがとても多いと感じています。」とおっしゃっていました。

甲南高等養護学校では、今後、通常の農業高校のように、一定区画の農地を生徒自ら考えて栽培する内容に変えていく予定で、より実際の就農に近い形で授業を行うことを目指されています。



農業者の方等に助言をいただき、実習のさらなる改善に繋げています

「しがしごと応援団」を募集しています！

「しがしごと応援団」は特別支援学校の職業教育を応援する企業の登録制度です。「職場見学」、「就業体験の受け入れ」、「農作業などの作業学習へのアドバイス」等を通じて、生徒の「はたらきたい」という夢を実現させるための応援をいただきます。



【問い合わせ窓口】

滋賀県教育委員会事務局 特別支援教育課

TEL：077-528-4643、FAX：077-528-4957

E-mail：tokushi@pref.shiga.lg.jp

詳しくは県 HP を
ご覧ください。⇒



～滋賀県みらいの農業振興課からのお知らせ～

「しがの農×福ネットワーク」の会員（個人・団体等）を募集しています！

しがの農×福ネットワークは、「農福連携」に関心のある個人、団体、企業などが、交流や意見交換などを通じて、農福連携の取組を推進するネットワークです。障害者の受入や雇用に関心をお持ちの農業者の方、農業を事業に取り入れたい福祉関係者の方など、農福連携に関心をお持ちの皆様のご参加をお待ちしています。

詳しくは県 HP をご覧ください。⇒

